

令和8年度 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時・場所

令和8年9月9日(水) 10:00~12:00 選択教室I

2 出席者 学校運営協議会委員(出席6名欠席1名 過半数の出席)

学校教職員(校長、副校長、全日制教頭、定時制教頭、事務長、運営委員)

3 報告事項:学校の現状

全日制・定時制の教育活動や生徒の状況等について報告が行われた。

全日制では、教職員研修を通じ、生徒への支援力向上を図るとともに、3年生の就職・進学に向けて全校体制で進路指導を進めている。部活動では県大会出場等の成果がある一方、一部で再編も進行している。また、地域企業との連携、4校合同体育祭、アート・探究活動、海外ユースオーケストラとの交流など、地域や外部機関と連携した教育活動を積極的に展開している。

定時制では、中学校時代に登校に困難を抱えていた生徒も含め、多くの生徒が安定して学校生活を送っていることが報告された。また、地域や関係機関の協力による「放課後カフェ」等を通じ、生徒同士や地域の方々との交流機会を設けている。

4 協議事項:今年度の地域連携(地域探究学習)

1年生を中心に実施している地域探究学習について、目的、活動内容及び今後の予定について説明し、意見交換を行った。

地域探究学習では、「学校」「地域」「自己」に関する課題を設定し、グループごとにテーマの決定、問いや仮説の設定、情報収集、研究、ポスター作成等に取り組む。原則として毎週月曜日の7時間目を活動時間とし、少人数のグループを基本として探究を進める。今後は、地域でのインタビューなどフィールドワークも取り入れる予定である。

また、教職員や地域から課題を募るとともに、外部人材の協力も得ながら、生徒リーダーを中心として生徒同士で活動を進める体制づくりを行っている。12月12日のオープンスクールでは、ポスターセッション形式による成果発表を行い、中学生や地域住民にも公開する予定である。

意見交換では、地域や企業と連携した活動は、生徒が学習内容と社会・職業とのつながりを実感する上で有意義であるとの意見が出された。一方、地域行事やボランティア活動については、生徒の参加が十分でないことが課題として挙げられた。単に募集情報を示すだけでなく、活動を通して何を学べるのか、進学・就職や自己成長にどのようにつながるのかを具体的に伝えることが必要との提案があった。

さらに、実際に活動を経験した在校生や卒業生の体験談を紹介したり、動画等を活用したりすることで、生徒が活動後の自分をイメージできるような働きかけが効果的ではないかとの意見が出された。

5 協議事項：学校経営・生徒教育に関する意見交換

学校経営及び生徒の教育活動について、委員から次のような意見・提案が出された。

・キャリア教育の充実

「放課後カフェ」の場では、生徒から大学・専門学校や資格、将来の職業について質問を受けることが多く、1年次から進路や職業について具体的に考える機会を設けることが重要である。学校外の人材も活用しながら、生徒の進路選択を支援していくことが望ましいとの意見があった。

・挨拶及び地域との関係づくり

以前に比べ、生徒からの挨拶が少なくなっているのではないかと指摘があった。また、登下校時など日頃から生徒を見守っている地域住民に対し、学校側からも感謝を伝え、地域との良好な関係を築いていくことが必要との意見が出された。

・地域活動への参加促進

地域行事や防災訓練等への参加を促す際には、単に募集するだけでなく、生徒自身の役割や活動内容を具体的に示すことで、「地域の一員として参加している」という意識を持たせることが重要との提案があった。行政や地域関係者から直接、生徒に活動内容を説明する機会を設けることも有効ではないかとの意見があった。

・探究学習の成果の地域への還元

探究学習は、調べて発表して終わるのではなく、生徒が調査した地域の歴史や課題等を地域住民と共有し、その成果を地域づくりに生かす視点が重要である。生徒の学びをきっかけとして、多世代で地域について考える機会につなげることが期待されたとの意見があった。

・防災意識の向上

地震や豪雨等の災害に備え、自分の住む地域の避難場所や災害時の帰宅方法、家族との連絡方法等について、生徒自身が考える機会を設ける必要があるとの意見が出された。学校だけでなく、家庭や地域と連携して防災意識を高めていくことが重要である。

・地域との協働による生徒の成長

専門的な学習や地域企業との協働、ボランティア活動等を通じて、生徒が自分の学びや作品が社会につながる経験を積むことは、自己肯定感や社会性、協働性の育成につながる。生徒の成長と地域の活性化の双方につながる取組を今後も進めてほしいとの意見があった。